

加藤 奏 御

領事ニ任ル事ヲ望マレタリ  
政府ノ名代人ノ貴首都ニ任シラレタルハ 皇帝政  
府ヲイテ兩國ノ間ニ存スル所ノ懇親ナル交誼ヲ彌  
益堅固ニシ將之ヲ産盛増大ナラシメント欲スルカ  
故ナリ魯西亞 皇帝ノ領事ノ職ヲ以スシテ函館ニ  
在リ日本政府ニモ既ニ知ラレ、所ノスタグスキー  
ロソクエツニクロビエーツオフハ余カ 皇帝ノ充  
滿ナル信用ノ蒙ルモノ也兩國互ノ裨益ニナルヘキ  
萬事彼ニ注意シ給フヘシ亦彼カ建言スル事アラハ  
專ラ信シ給ハン一ノ余ハ懇願ス余全ク恭敬シテ仁  
君ニ隨從スルヲ信シ給ヘ  
十ハ百セナニ年五月十九

十一月十日 八年

第百六十四號

今般露西亞國ト千島樺太兩島交換條約列紙ノ通取結  
相成候條此旨布告候事 外務

二十五

七

文頁

大正  
西  
美  
州

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本皇帝此書ヲ以テ宣示ス  
朕全露西亞皇帝陛下ト望ヲ同シ朕ハ樺太島薩哈連島ノ内朕カ所領タル部  
分ヲ全露西亞皇帝陛下ヘ讓與シ全露西亞皇帝陛下ハ其所領タル千島  
群島アイリールノ全部ヲ朕ニ讓與スルコトヲ互ニ決シタルヲ以テ雙方  
ノ全權重臣明治八年五月七日彼得堡ニ會シ其條約ヲ締盟調印セリ即  
其條款左ノ如シ

千  
島  
太  
交  
換  
條  
約

條約

大日本國皇帝陛下ト

全魯西亞國皇帝陛下ハ今般樺太島即薩哈是迄兩國雜領ノ地タルニ由  
リテ屢次其間ニ起レル紛議ノ根ヲ斷テ現下兩國間ニ存スル交誼ヲ堅  
牢ナラシメンカ爲メ

大日本國皇帝陛下ハ樺太島即薩哈上ニ存スル領地ノ權理

全魯西亞國皇帝陛下ハ「クリル」羣島上ニ存スル領地ノ權理ヲ互ニ相  
交換スルノ約ヲ結ント欲シ

大日本國皇帝陛下ハ海軍中將兼在魯京特命全權公使從四位樓本武揚  
ニ其全權ヲ任シ

全魯西亞國皇帝陛下ハ太政大臣金剛石裝飾魯帝照像金剛石裝飾魯國

シント、アンドレアス褒牌シント、ウラジミール一等褒牌アレキサンドル、  
チフスキ一等褒牌白鷺褒牌シントアンナ一等褒牌及シントスタニスラ  
ス一等褒牌佛蘭西國レシウン、ド、オノール大十字褒牌西班牙國金膜大  
十字褒牌澳太利國シント、エナチ大十字褒牌金剛石裝飾字露生國黑  
鷲褒牌及其他諸國ノ諸褒牌ヲ帶ル公爵「アレキサンドル、ゴルチャコ  
フ」ニ其全權ヲ任ゼリ

右各全權ノ者左ノ條款ヲ協議シテ相決定ス

第一款 大日本國皇帝陛下ハ其後胤ニ至ル迄現今樺太島即薩哈ノ一  
陸島部ヲ所領スルノ權理及君主ニ屬スル一切ノ權理ヲ全魯西亞國皇帝  
陛下ニ讓リ而今後樺太全島ハ悉ク魯西亞帝國ニ屬シ「ラベル  
ズ」海峽ヲ以テ兩國ノ境界トス

第二款 全魯西亞國皇帝陛下ハ第一款ニ記セル樺太島即薩哈ノ一  
陸島ヲ受シ代トシテ其後胤ニ至ル迄現今所領「クリル」羣島即ナ  
第一

「シユムシユ」島第二「アライド」島第三「バラムシル」島第四「マカ  
ンルシ」島第五「ヲチコタン」島第六「ハリムコタン」島第七「エカル  
マ」島第八「シヤスコタン」島第九「ムシル」島第十「ライコケ」島第十  
一「マツア」島第十二「ラスツア」島第十三「スレドチワ」及「ウシ、  
ル」島第十四「ケトイ」島第十五「シムシル」島第十六「プロトン」島  
第十七「チエルボイ」並ニ「ブラット、チエルボエフ」島第十八「ウルッ  
プ」島共計十八島ノ權理及ビ君主ニ屬スル一切ノ權理ヲ大日本國皇  
帝陛下ニ讓リ而今後「クリル」全島ハ日本帝國ニ屬シ東察加地方  
「ラバツカ」岬ト「シユムシユ」島ノ間ナル海峽ヲ以テ兩國ノ境界トス

第三款 前條所載各地並ニ其地産ハ此條約批准爲取換ノ日ヨリシテ直ニ全ク新領主ニ屬スル者トス但其各地受取渡ノ式ハ批准後雙方ヨリ官員一名又ハ數名ヲ撰テ受取掛トシ實地立會ノ上執行フベシ

第四款 前條所記交換ノ地ニハ其地ニアル公同ノ土地、人ノ下手セザル地所、一切公共ノ造築、壘壁、屯所、及ビ人民ノ私有ニ屬セザル此種ノ建物等ヲ所領スルノ權理モ兼存ス

現下各政府ニ屬スル一切ノ建物及動産ハ第三款ニ載スル雙方ノ受取掛役取調ノ上其代價ヲ按查シ其金額ハ其地ヲ新ニ領スル政府ヨリ出ス者ナリ

第五款 交換セシ各地ニ住ム各民(日本人及魯人)ハ各政府ニ於テ左ノ條件ヲ保證ス、各民並共ニ其本國籍ヲ保存スルヲ得ルコト、其本

國ニ歸ラント欲スル者ハ常ニ其意ニ放セテ歸ルヲ得ルコト、或ハ其交換ノ地ニ留ルヲ願フ者ハ其生計ヲ充分ニ營ムヲ得ルノ權理及其所有物ノ權理及隨意信教ノ權理ヲ悉ク保全スルヲ得ル全ク其新領主ノ屬民(日本人及魯人)ト差異ナキ保護ヲ受ル事雖然其各民ハ並共ニ其保護ヲ受ル政府ノ支配下ニ屬スル事

第六款 樺太島即薩哈ヲ讓ラレシ利益ニ酬ユル爲メ全魯西亞國皇帝陛下ハ次ノ條件ヲ准許ス

第一條 日本船ノ「コルサコフ」港ニ來ル者ノ爲メニ此條約批准爲取換ノ日ヨリ十ケ年間港稅モ海關稅モ免スル、此年限滿期ノ後ハ猶之ヲ延スモ又ハ稅ヲ收メシムルモ全魯西亞皇帝陛下ノ意ニ任ス全魯西亞國皇帝陛下ハ日本政府ヨリ「コルサコフ」港ヘ其

領事官又ハ領事兼任ノ吏員ヲ置クノ權理ヲ認可ス

第二條 日本船及商人通商航海ノ爲メ「ヲホック」海諸港及東察加ノ海港ニ來リ又ハ其海及海岸ニ沿テ漁業ヲ營ム等渾テ魯西亞最懇親ノ國民同様ナル權理及特典ヲ得ル事

第七款 海軍中將榎本武揚全權委任狀ハ未タ到來セズト雖モ電信ヲ以テ其送致スル旨ヲ確定セラル、ニ由リ其到ルヲ待タズシテ此條約面ニ記名シ其到ルヲ待テ各全權委任狀ヲ相示スノ式ヲ行ヒ別ニ其事ヲ記シテ以テ左券トスヘシ

第八款 此條約ハ大日本國皇帝陛下並ニ全魯西亞國皇帝陛下互ニ相許可シ而シテ批准スヘシ但各皇帝陛下ノ批准爲取換ハ各全權記名ノ日ヨリ六ヶ月間ニ東京ニ於テ行フヘシ

此條約ニ權力ヲ附スル爲メ各全權各其姓名ヲ記シ並ニ其印ヲ鈐スル者ナリ

明治八年五月七日即一千八百七十五年四月二十五日比特堡府ニ於テ

榎本武揚(印)

ゴルチャコフ(印)

朕親シク右條約ヲ通覽シ其旨ヲ至當トス故ニ今此書ヲ以テ之ヲ全ク  
證認批准シ天地ト悠久ヲ期シ總テ條約中所載ノ條款ハ正ニ之ヲ遵行  
セン事ヲ約ス右定證トシテ爰ニ朕カ名ヲ親記シ國璽ヲ鈐セシム  
神武天皇即位紀元二千五百三十五年明治八年八月廿二日  
御名 國璽

奉勅

外務卿寺島宗則

外務卿印



外務省上申

八年

樺太地魯圍千島郡島ト交換條約批准按別紙取調相

候間早々御沙汰有之度此段上申仕候也 八月五日

別紙批准按ハ發表ノ分ト同レ依テ省ク

同ノ通 八月十八日

四史議按

樺太島交換條約却批准按ノ俄別段不都合ノ慮ニ無之

候間外務省草按ノ通ニテ可然哉 八月七日

外務省上申

樺太千島交換條約昨二十二日為取替相濟且右條約

附録書魯圍辨理公使スツルウ工氏トノ談判相整平

日於外務省調印相濟候間條約書並附録譯文相添此

段致上申候就テハ右條約交換濟ノ儀即今御布告不

大文類集

相成様致レ度其譯ハ今般交換ノ本條約共調印ノ附録本書共同公使ヨリ本國政府ニ差送リ同國帝ノ先許ヲ經候上ニテ雙方政府月日打合ノ上同日各人民ニ公布致度其以前ハ一般ニ不相洩様致度昔此程同公使ヨリ懇々中立右ハ尤ノ次第ニテ交際上關係重大ノ事件ハ結果公布候マテハ嚴重相秘候事交際上一般ノ成規ニモ有之旁同公使中立ノ通御處分相成度存候併テ此段上申候也 八月廿三日

四史本課中譯

外務省上申樺太千島交換條約本書為取替濟元附録調印濟ノ儀共高覽候也 八月廿八日

外務省上申

千島樺太兩島交換條約ノ儀ハ露國政府ハ打合ノ上

御布告可相成等ニ付先般露都在勤榎本全權公使ヨリ同政府ニ為打合候處兩國皇帝御批准相濟タル條約ノ公告スル事素ヨリ各政府ノ自由ニ有之候間聊差支無之旨申聞候ヨリ今般榎本公使ヨリ致報告候就テハ右條約書ハ早々御布告相成候方可然尤モ公文并條約附録ハ御頒布不及儀ニ存候此段致上申候也 十月三十一日 附録ハ九年二月廿九日第ニ上申ノ經第百六十四号ヲ以テ布告候事 十月十日

條約ニ屬スル公文

日本國皇帝陛下ノ政府ト魯西亞國皇帝陛下ノ政府ハ本日兩帝國間ニ結ビタル條約第肆款ニ載タル件ニ完成セン為ノ下名ノ者協議ノ上左ノ條款ヲ定ム  
第一款 魯西亞帝政府ハ本條約ノ旨ニ基テ日本政

府泊、建物及、動産ノ引受、キヲ以テ其代價ヲ日本政府ニ拂フコトヲ承諾シ日本政府ヨリ報知セラレシ金額即チ棟敷一百九十四軒代價七萬四千零六拾三圓（日本）及動産ノ代價一万九千八百拾四圓ヲ以テ其物價検査ノ基本トス

第二款 本日取結（）ノ條約第三款ニ掲クル各地受取抵雙方役人ハ各地ニ在ル建物及動産ノ兩政府ニ歸スヘキモノヲ検査シテ其代價ヲ決定スヘシ  
右雙方役人ヨリ各地共ニ靜動ニ産受取渡濟及其決定セシ代價ノ届書落手ノ後魯西亞政府附ノ物品代價差引到餘金額ハ各地共ニ靜動ニ産公然受取渡濟ヨリ六ヶ月内ニ比特堡府ニ於テ日本公使又ハ日本國皇帝陛下ヨリ別段ニ其命ヲ奉ヒタル役人ニ渡ス

ハシ

第三款 本日結約ノ第五款中ニ陳スル交換セル各地ニ留ル各民ノ推理及地位並ニ各地ニ住ハ夷族ノ儀ニ付テハ東京ニ於テ日本政府魯西亞辨理公使ト尚之ニ附録スヘキ條款ヲ取極ムヘシツノ為ノ入用ナル全權ノ魯公使ニ附スル者ナリ  
第四款 前條ニ載クル議定セシ件ハ同日記名セシ本條約ノ列ニ加ヘタルモ同シ権力アル者ナリ  
右ヲ確定スル為メ下名ノ者此公文ヲ作り以テ各具印ヲ調スル者ナリ

明治八年五月七日即一千八百七十五年

四月廿五日  
五月七日 比特堡府ニ於テ

復  
本  
武  
コ  
揚

大正領典

外務省回答 又官家

千島樺太兩島交換條約譯文結末月日、儀ニ付再應  
御照會ノ趣致承知候則條約原書ニ八月日記載有之  
候、凡上中譯文ニハ右月日脱落候儀ニ有之候且裁  
可伺、御批准文中五月六日彼得堡ニ會シ云々ト相  
記シ候ハ全ク誤謬ニレテ五月七日ニ相違無之儀ニ  
候此段回答申進候也 十一月八日

第一科議案 本局懸查

別紙外務省上申露國ト千島樺太兩島交換條約御取  
結相成候ニ付テハ其旨全國ニ公告ノ儀右ハ寂前同  
省ヨリ申出、旨モ有之今日マテ御見合相成居候末  
ニ付即左紫ノ通り御布告可相成哉相伺候也 八月十  
一月五日

二月二十九日 九

第二十四號

露西亞國ト千島樺太島交換條約明治八年十一月  
十四号ノ以テ布告候處右附録別紙ノ通ニ候條此旨布  
告候事 外務

千島樺太交換條約附録

明治八年五月七日即チ千八百七十五年四月二十五日  
露國聖比特堡府ニ於テ調印濟ノ公文第三款ニ基キ及  
同日調印ノ條約第五款ノ旨趣ヲ完全ナラシメ且施行  
セシカ為ノ雙方讓與濟ノ領地ニ在住セル各政府臣民  
ノ權利及其身分且兩地方土人ノ一ニツキ日本皇帝陸  
下及全露西亞皇帝陛下ハ為メニ各全權委員ヲ命シ夕  
リ即チ日本皇帝陛下ハ其外務卿寺島宗則ヲ之レニ任